

< 「親子で登る自立の坂道」期：「子が親離れしていく」編 - 3 >

対象(時間): 小学4~6年生の親(110分程度)

さあ、どっち!? ~信じる,見守る,待つ,聞く~

【ねらい】 反抗期等多感な時期の子どもとの接し方から、親子のより良いコミュニケーションの取り方について考える。

【準備物】 学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、簡単な図形を書いたA4の紙(2種類,人数分)、白紙(人数分)、バインダー(人数分)

時間	アクティビティの展開	留意点	備考
：	名札付け(来た順に)	全員が名札をつける。(ニックネーム可)	スケジュールを板書しておく。 ・机は講義形式
： (5分)	ファシリテーター(学習支援者)自己紹介,主旨・ルール等説明	和やかな雰囲気づくりに配慮する。 写真を撮る場合は,予め了解を取る。(肖像権)	
： (15分)	アイズブレイク (雰囲気づくり) 「聞いて聞いて」 ペアを作り,背中合わせに座る。 一人は図形を説明し,一人は一方的に聞き,図形を描く。(1分) 次に,聞く側に質問権を与えて,図形を修正していく。(2分) 交代する。 作品を見せ合い,感想を述べ合う。	初対面の人同士の場合,自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 一方の人は図形を描いた紙を持ち,もう一方の人は白紙を綴じたバインダーを持ち,背中合わせに座る。(図形を見られないように注意する。) 図形を変える。 一方通行(聞くだけ)ではなかなか理解できないことを実感し,双方向のコミュニケーションの大切さを考える。 「じっと聞く」ことがいかに忍耐がいるか,適度な相槌や質問がいかに理解を進めるかを,実感できるようにする。 最後にグループ分けし,自己紹介も行う。(その間にワークシートを配付する。)	・机を撤去 ・グループ数に応じて,机を配置
： (15分)	<考えましょう,出し合しましょう> P2を読んで記入 P3を読んで記入	「両極端な例ですが…」と言いながら。	
： (40分)	グループでお互いの意見を出し合う。	三つの約束(発言の平等,人の発言を肯定,秘密の保守),ただし,言いたくないことは発表しなくてもよい。(パス有り) 頭ごなしに叱る対応が,子どもとのコミュニケーションを阻害する可能性について考える。(ただし「叱られてスッキリした」等の意見も大切にする。) 信じる」とこと「ほったらかす」ことの違いについて考える。「何も聞かず,ただ見てくれていたのがうれしかった」等の意見も大切にする。)	
： (10分)	グループから発表		
： (5分)	<さらに考えましょう> ゆっくり読む。(P4上・5分)	時間があれば,県民の声も読む。(県民の声は必ずしも「模範解答」ではなく,いろんな意見があるということを示すためのもの)	
： (15分)	<学習を振り返りましょう> ワークシートへの記入 ファシリテーターの話		
： (5分)	終了・片付け アンケート記入	参加者全員で行う。 アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
メモ			